

「自ら考え、豊かに表現できる生徒の育成」

～学ぶ意欲を持ち、支え合う集団づくりを目指して～

I 主題設定の理由

勝沼中学校の学校経営における基本方針は、甲州市で進める「確かな学力育成プロジェクト」の3つの視点である「授業づくり，授業改善」「学級づくり，集団づくり」「保護者，地域住民等との連携」の中にすべて含まれている。ゆえに、甲州市のプロジェクトを基に、生徒に確かな学力を保証する集団づくり，授業づくりを推進し，併せて豊かな心を育む取り組みを実践することで，基本方針の実現へと向かっていくと考えられる。

学級集団の状態が良好であれば，学習への意欲も高まり，共に学び合う姿勢が作られる。そのためには，学年でQUアンケートを丁寧に分析し，それぞれの学級集団を把握した上で，その学級に適した対策を考え，チームで指導をしていくことが重要であると考え。

授業については，今年度も毎時間の授業で「目標」と「ポイント」を提示し，生徒も教師も互いに見通しをもって，授業に臨めるような取り組みを行った。また，学習の苦手な生徒への補習授業として，「学舎タイム」という時間を設定し，それらの生徒を一カ所に集めて，複数の教師で集中的に教えるという活動を行った。

他にも授業規律の均等化を目指し，授業評価シートを活用したり，班替えや行事の後にエンカウンターを行い，学級づくりにも力を入れた。今年度も昨年度から実践していることを継続して行い，より質的な向上を目指していきたいと考えている。そのためには，校内研究の中で，PDCAサイクルをきちんと回しながら，今年度はそれにS（標準）を加え，PDCA+Sのもと，取り組みを標準化させていきたい。

II 研究の具体的内容と方法

(1) 授業づくり，授業改善に関わって

- ア 道徳のすべての内容項目に関わる授業を行う。
- イ NRT検査や全国学力学習状況調査，県学力把握調査を分析し，改善を図る。
- ウ 甲州市「ティーチャーズノート」を活用し，一人一実践授業を行う。
- エ 「目標」と「ポイント」を提示し，見通しのある授業を行う。
- オ 朝読書を充実させ，量的な向上を図り，また，読書集会を開催する。

(2) 学級づくり，集団づくりに関わって

- ア 朝の会や帰りの会でスピーチを行う。
- イ 学校全体で授業評価シートを使い，基本となる授業規律を確立する。
- ウ 「hyper-QUアンケート」を実施し，K-13法で分析する。
- エ 学校全体で「共同絵画」というエンカウンターを行い，集団づくりを行う。
- オ 2学年で，「わだつみ平和文庫」に関わる学習会を開催する

【研究授業の実施】上記の（１）と（２）をふまえ、研究授業を行う。

- ・ 道徳：主題「よりよい学校生活」，資料「いま新しき力あふれて」 丹澤基予子教諭
- ・ 道徳：主題「集団生活の向上」，資料「赤い食堂と青い食堂」 大澤 祐子教諭

（３）家庭学習の習慣化に関わって

- ア 学舎タイムで、家庭学習の習慣化と基礎学力の向上を図る。
- イ 甲州市「家庭教育・子育て Q&A」や「学習の手引き」を懇談会で活用する。
- ウ 「学びの甲斐善八か条」を活用し、八のつく日に家庭学習の振り返りを行う。
- エ 「学習のレシピ」を紹介し、自主学習ノートの質の向上に努める。

Ⅲ 成果と課題

「授業づくり，授業改善」「学級づくり，集団づくり」「家庭学習の習慣化」の３つの柱を立て、具体的な取り組みを行った。授業づくりにおいては、NRT検査や全国学力学習状況調査，県学力把握調査の分析を行い，学校全体で課題を見つける中でピックアップ問題を活用するなど，授業改善に取り組んだ。また，単元テストの回数を増やして課題を早い段階で見つけ改善を行ったり，見直し振り返り学習の一環として「今日の目標」と「ポイント」を黒板に提示し，授業の流れや重要事項をすべての教科で明確に示すことができた。道徳においては内容項目表を職員室に貼り，各学年で協力する中ですべての項目を実践することができた。学級づくりにおいては，授業規律の均等化を目指し，授業評価シートを活用して，毎時間，授業規律の向上を図ることができた。授業評価シートについては，生徒会の自主的な活動として位置づけるなど，活用の仕方に工夫が見られ，取り組みの幅が広がった。また，「hyper-QU アンケート」を実施し，K-13法で学年毎に分析を行い，改善の仕方を考えることで，チームとして指導を行うことができた。また，行事後にエンカウンターを行い，集団づくりの向上に取り組むことができた。その他にも「学びのレシピ」という家庭学習ノートの実践事例を作成し，それを紹介する集会を開催したり，読書への興味や関心を高めるために読書集会を行った。家庭学習の習慣化においては，学年毎，廊下に工夫された自主学習ノートを掲示して家庭学習の質の向上に取り組んだ。また，今年度も「学舎タイム」という時間を設定し，基礎学力の向上に取り組んだ。この時間は，数学と英語が苦手な生徒を一カ所に集め，複数の教師で集中的に教えるという活動である。その他の生徒は，各教室で苦手な教科の学習に取り組むというものである。最終的には，先輩が後輩に教えるなど，生徒同士の学び合いに発展させていきたい。来年度もこれらの質を更に高めると共に，言語活動ハンドブックを活用して，思考ツールなど，新たな手法に挑戦し，言語活動の充実をより一層進めていきたい。

（終わりに）

生徒の実態に合わせた取り組みを展開していくことにより，自ら考え，豊かに表現できる生徒の育成へとつなげていきたい。 (研究主任 天野秀太郎)